

環境

環境安全担当役員メッセージ



環境安全担当
高橋 成治

基本方針

JSRグループは、労働安全と保安防災、環境保全、製品安全を事業活動の重要な基盤として捉え、次に示すレスポンシブル・ケア® (RC)の基本方針のもとに、あらゆる事業活動を推進します。

1. 事業活動に伴うリスクの把握と対策の実行により、社員・地域社会の安全確保と環境保全、持続可能な地球環境への貢献に努めます。
2. 事業活動に必要な法規制などの情報収集と確実な展開により、法令および自主規制の遵守に努めます。
3. 安全・健康・環境に配慮した製品開発とその情報提供により、製品安全に努めます。

「安全」の考え方をグループ全体で共有し、強固な経営基盤の構築を図っていきます

JSRグループは2021年度に、グループの経営基盤に関するマテリアリティ(重要課題)である「環境保全・負荷低減」「安全・健康」にKPIを設定しました。これに基づき、2022年度も活動を続けています。

「環境保全・負荷低減」については、GHG排出量の2050年度「実質(ネット)ゼロ」達成を確実なものとするため、中間目標として「2030年度に2020年度比30%削減」を設定して取り組んでいます。すでに以前からの省エネ活動に加え、購入電力の再エネ化やエネルギー転換などを進めています。これからもJSRグループ一体となって活動していきます。

「安全・健康」については、2022年度から、ライフサイエンス事業を含む国内外のJSRグループ全拠点での安全基盤固めを意識した活動に重点をおいています。

活動の一つに安全に関する価値観の浸透があります。今回、JSRグループ共通の安全の考え方をよりわかりやすい内容に整えました。その考え方を従業員一人ひとりに浸透し、さらに各拠点の安全レベルを共通の基準に基づいてモニタリングすることで、JSRグループ全体の安全レベル向上を図っていきたくと考えています。



詳細は、サステナビリティサイトをご参照ください。
<https://www.jsr.co.jp/sustainability/environment/reduction.shtml>

このような新たな活動を、強固な経営基盤の構築はもとより、従業員、地域社会、顧客、株主などすべてのステークホルダーへの価値提供につなげていきます。

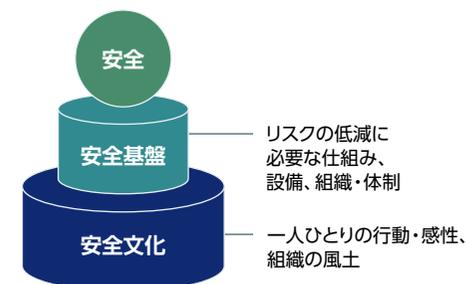
ご安全に。

JSRグループが目指す安全

安全をリスクベースで考え、安全はリスクを低減する安全基盤とその安全基盤を補完・強化する安全文化が支えています。

安全の状態を3段階に分けて、目標とするステージ3を目指して、安全レベルの向上を図っていきます。

「安全」とは、**リスクが受け入れ可能なレベル**にある状態をいい、**安全基盤と安全文化**に支えられ、確保されます。



基本的な考え方

JSRグループは、化学物質を取り扱う企業として、持続可能な地球環境や社会の実現に貢献することが私たちの務めと認識しています。

そのため、事業活動に伴う環境負荷低減と化学物質の適正管理を重点課題として捉え、エネルギー消費による温室効果ガス排出削減や廃棄物の適正管理などに努めています。特に気候変動は、自然災害の増加や環境規制によるリスクが事業に及ぼす影響が大きいと予想されます。このため温室効果ガスの排出量削減を中長期的な経営課題として捉え、JSRグループとして取り組んでいます。

環境負荷低減～マテリアルバランス～

JSRグループでは、インプットとアウトプットを定量的に把握し、精査することにより、総合的・効率的に環境負荷の低減に努めています。



気候変動緩和 マテリアリティ



GHG排出量削減の取り組み

JSRグループでは、これまで燃料転換に加え、コージェネレーション設備や汚泥乾燥設備の導入をはじめとする省エネ技術の高度化などに取り組んできました。

2022年度の主な取り組み例として、電力調達方法の変更による排出量削減などを目的に、以下の拠点で「再生エネルギー」電力プランへの切り替えを行いました。引き続き排出量削減への取り組みを進めていきます。

製造拠点

- ・ JSRマイクロ九州株式会社
- ・ JSR Micro N.V.



詳細は、サステナビリティサイトをご参照ください。
<https://www.jsr.co.jp/sustainability/environment/co2.shtml>

事務所

- ・ 本社(テナントビル)

また、TCFDの趣旨に賛同し、シナリオ分析を通じて気候変動関連のリスクと機会を特定するとともに、中長期的な対策を策定しています。これに基づき、革新的なエネルギー技術導入に挑戦するとともに、環境対応型の事業・製品開発を推進し、脱炭素・循環型社会の形成に貢献しています。

2050年のGHG排出量を「実質(ネット)ゼロ」とすることを旨とし、今後も積極的な挑戦を続けます。



JSRマイクロ九州



JSR Micro N.V.

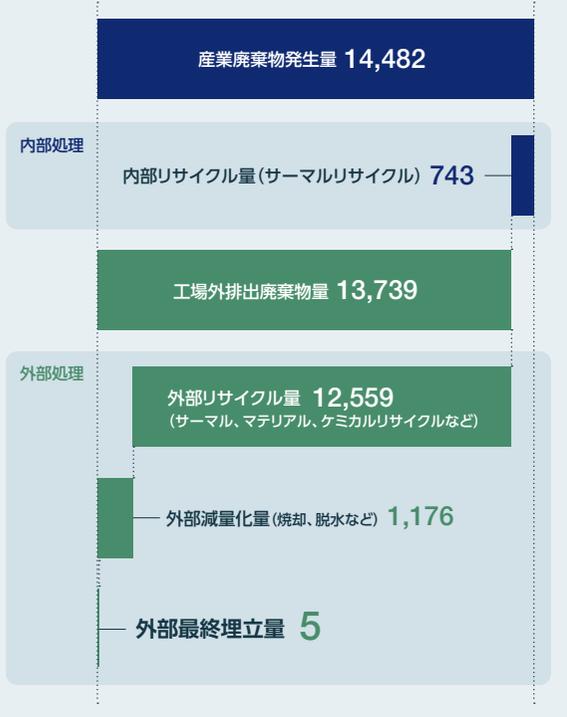


詳細は、サステナビリティサイトをご参照ください。
<https://www.jsr.co.jp/sustainability/environment/reduction.shtml>

廃棄物削減 マテリアリティ

ゴール：最終埋立量0.1%以下

産業廃棄物の処理 (2022年度) 単位：トン



■ 産業廃棄物削減の取り組み

JSRグループでは、「廃棄物埋立量ゼロを目指す」ことを重要課題と認識しています。

グループの企業活動で発生した産業廃棄物等は、まず内部処理 (分別、リサイクル、あるいは減量化など) したうえで、残りを工場外排出廃棄物として外部処理しています。こうした中、「廃棄物の外部最終埋立処分量を廃棄物発生量の0.1%以下にする」ことをグローバル目標として定め、リサイクルを推進しています。

2022年度の産業廃棄物発生量は14千トン (前年度比25%減)、リサイクル率は92%となりました。その結果、最終埋立量は5トンになり、最終埋立率0.1%以下を維持しています。引き続き抑制に努めるとともに、リサイクルを推進し、長期的視点での活動を進めていきます。

■ 廃プラスチック類のリサイクル推進

JSRでは廃プラスチック類のリサイクル推進に向けて、2030年度に熱回収を含むリサイクル率を100%、熱回収を含まない値では60%とする目標を掲げて取り組んでいます。

2022年度の廃プラスチック類の熱回収を含むリサイクル率は、JSRおよび国内グループ企業で92%となりました。今後も取り組みを継続します。熱回収を含まない場合のリサイクル率も現段階では目標値に届かないことから、引き続きリサイクル率向上に取り組んでいきます。

化学品管理

JSRグループでは2007年の欧州REACH規則施行以降、各国で強化されてきた物質登録などの規制動向を都度確認し、事業内容や現地法人の体制も踏まえて、漏れなく対応を実施しています。

製品安全確保の見地から、製品の設計段階から各国の物質リスク評価の動向を踏まえた製品開発を行っています。

また、既存物質への安全性データを伴う登録の義務化についても、現地法人との協働体制で円滑に対応しています。

水資源の保全

JSRグループでは、水資源を飲用以外に、製造工程における原料、洗浄水、化学物質の除害装置、および冷却水等に使用しています。そのため、水資源のプロセス内における循環利用などに取り組むとともに、使用後は適切な浄化処理や水質確認などを施したうえで河川などに排出しています。

2022年度の水資源使用量は3,853千m³ (前年度比3.3%減)、総排水量は3,748千m³ (前年度比4.4%減) でした。

ますます重要度を増している水資源について、今後も適切な管理に努めていきます。